

洋上都市理想郷 10000人のコミュニティの提案

2015.10.1 河田新一郎

生涯を海洋科学を研究する海で暮らす人々の久遠の都市について考察した。

昔から筏の上で暮らす生活は物語の中にはあったようだが、現代の科学をもってこのアイデアを実現することに着眼する。

直径600M程の筏に、3階程度の軽い建築を載せた分散配置により荷重を均等にする手法である。

筏の上にフラットな剛性の高い盤を曳き、その基盤上で井桁構成によるインフラによって都市を支える。

下部構造については浮力、ジョイント、インフラ等様々な適切な機能を持つよう現在検討中である。

海からの浮力を感じさせる造形は大きな高い建物を建てるより、低層分散型のフラットな構成の方がより大きな「浮き力」を感じさせる。最小単位のこの丸い筏には迫力がある。

海の中にちりばめられた花卉のように美しい海上での世界を演出するであろう。

計 画 概 要

④全体構成

この洋上都市は8サークルの筏（直径600M）の浮体から成る。

筏上部には航空母艦に滑走路を設けるように鉄骨コンクリート製の地盤を自由に設置し、その上に建物を配置する。

全体面積（筏部分港湾を含む）1サークルが約22万平方メートルで、全体では176万平方メートル（8サークル）程である。総体の直径は約2.2kmであり、外周へは中心施設の中央から1.1kmであり、歩行距離の範囲にある。

⑤下部構造

筏は高強度軽量のプラスチック製で、その内側は空洞になっており、浮力を大きく又調整する機能を考えている。

筏上層部には地盤とそれを支える梁とで厚さ2M程度で収め、梁と筏を繋結する。

剛性は地盤と梁とで保ち、梁はハニカム状としインフラ配管を通す構造とする。

外周の円状の歩道下にサークル状のメイン配管を設けることにより、それに接続するエクステンションに備えるように考慮する。

⑥上部構造と機能

上部建物は3階程度の軽量の建築として井桁状の主要道路を計画することにより、有機的な分散配置を試みる。

サークルは中央施設を中心にして、内海を隔て海洋総合研究所、近隣地区、農地を周辺に7サークル設置し、フローティングブリッジで繋げる。

近隣住区は4サークルで、1サークルは2500人（750世帯）居住出来るよう計画。

全体で一万人（3000世帯）のコミュニティとする。（114人/ヘクタール）農地は2サークルで1世帯当たり150平方メートル程度の農園を所有する。

中心施設はコミュニティの管理、その他ホテル、リゾート施設、公共施設、文化施設、医療施設、防災施設等都市機能を持った1サークルとする。

外周の中央には海洋科学総合研究所を設置し、海洋の産業、エネルギー、観光等海洋の先端研究の拠点とする。

陸内の交通手段としては管理用以外は乗用車は避け、コミュニティバス（小型バス）の運行による。外界との交通は航路、ヘリコプターを主体として、各港湾内には設備機能を設置する。